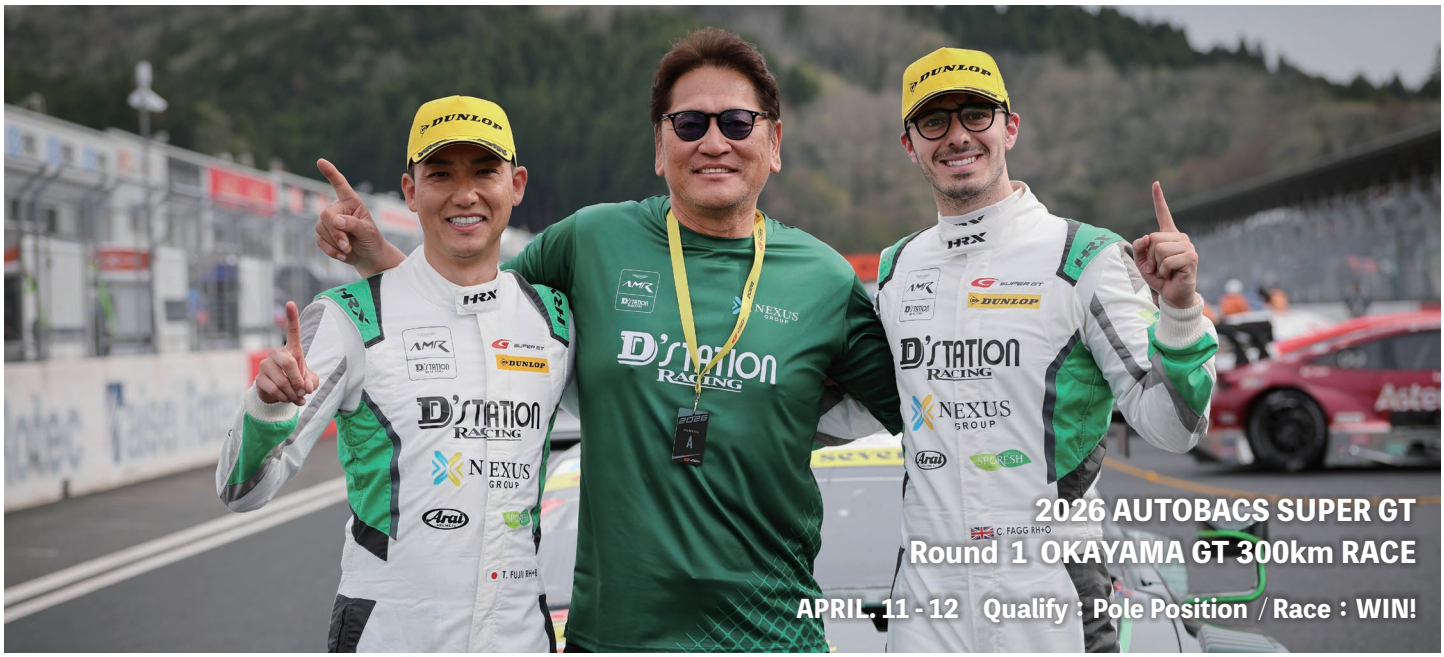

ポール・トゥ・ウイン！ 開幕戦はパーフェクトな週末に

2025 年はチャンピオン争いを展開しながらも、無得点のラウンドが多く、タイトル獲得はならなかった D'station Racing。迎える 2026 年は、藤井誠暢とチャーリー・ファグのコンビを継続し、チームスタッフやエンジニア等も継続。アストンマーティン・ヴァンテージ AMR GT3 とダンロップタイヤのパッケージもそのままと、体制を変更せず臨んだ。2025 年の強みをそのまま活かし、タイトルを目指すべく開幕戦の地、岡山国際サーキットに臨んだ。

オフシーズンのテストでは開幕に向けた取り組みを進めていたが、このオフ、チームには新たな気づきがあった。ダンロップが作り上げてきた新しいタイヤのパフォーマンスが高かった。藤井は昨年、一昨年と「決めていたタイヤの系統」があったというが、この新しいタイヤは藤井をして「僕の頑固な気持ちを覆すくらい（笑）」というパフォーマンスをもっていた。

迎えた開幕戦のレースウイークの幕開けとなった 4 月 11 日（土）、岡山国際サーキットは晴天に恵まれ、気温 18 度／路面温度 24 度というコンディションで午前 9 時 30 分から公式練習が始まった。この時季としてはかなり暖かいコンディション。D'station Vantage GT3 は藤井から走行を開始し、ファグに交代しながら周回を重ね、1 分 26 秒 780 というベストタイムを記録したが、路面温度に対しややタイヤのゴムが弱い印象があった。午後 2 時からの公式予選に向け、チームは別のコンパウンドをもつタイヤを使うことになった。「これがハマれば速いはず」という藤井の予想は、気温 25 度／路面温度 34 度という初夏の陽気となった公式予選 Q1 の A 組から証明された。ファグが 1 分 25 秒 431 というタイムを記録しトップで Q2 進出を果たすと、Q2 では藤井が 1 分 24 秒 561 を記録。D'station Racing は開幕からポールポジションを獲得してみせた。

優勝に最も近い位置からスタートすることになった 4 月 12 日（日）の決勝レースは、午後 1 時 20 分に始まった。気温 24 度／路面温度 39 度というコンディションのもと、藤井はまずスタートを決めトップで 1 コーナーへ入っていく。

序盤から好ペースで走る藤井は、2 番手を争っていた #2 GR86、#31 LC500h の争いを後目に、少しずつリードを広げていった。

藤井はタイヤを労りながらジワジワとリードを築いていき、4 秒以上のマージンを築いていく。29 周を終え、トップを守ったままピットインを行いファグに交代すると、チームクルーも抜群のピットワークを行い、D'station Vantage GT3 をふたたびコースに送り出してみせた。

このレースは中団グループの中にはタイヤ交換本数を減らし、ピットストップ時間を短縮するチームが数多くいたが、D'station Vantage GT3 はトップを堅持していった。またこの第 1 戦は、序盤こそコースアウト車両がいたものの、クラッシュには至らずフルコースイエローやセーフティカーが入らない珍しいレース展開となっていた。

そんな展開が、D'station Vantage GT3 の快走に味方した。ファグは 48 周という長丁場のスティントをきっちりとこなし、77 周のレースをフィニッシュ。ピットストップをレース中盤まで引っ張ったグループをのぞけば、一度たりともトップを譲らない盤石のレースを締めくくり、開幕戦のトップチェッカーを受けることになった。

開幕前の公式テストの結果を考えると、5 位あたりが今回の D'station Racing の具体的な目標だったが、ダンロップタイヤの好パフォーマンス、さらにチームスタッフ、そして藤井とファグの完璧な仕事ぶりにより、シーズンの幕開けはパーフェクトな週末となった。

すでに 2026 年はスーパー耐久シリーズも開幕しているが、D'station Racing はここまですべてのレースで表彰台を獲得する素晴らしいシーズンのすべり出しをみせた。この流れを第 2 戦に繋げるべく、チームはさらに勢いをつけていく。

AMR DUNLOP ENKEI ENDLESS HRX
NEXUS GROUP

COMMENTS：

SUPER GT

Team Owner：Satoshi HOSHINO

今回は事前の予想では５～６位くらいかな、と思っていたので、まさかポール・トゥ・ウインを飾ることができるとは思いませんでした。でも公式予選ではポールポジションを獲ることができましたからね。もう行くしかないと思いました（笑）。ドライバーふたりもチームも、最後までミスなく戦ってくれたので、とにかく最高の気分ですね。また今回のレースはフルコースイエローもセーフティカーランもなかったので、クルマの速さがあれば勝てるだろうと思っていました。すごく嬉しいです。次戦はウエイトが重くなりますが、なんとかポイント獲得ができる位置につけていきたいですし、チャンピオン争いができるようにしたいです。たくさんの応援、ありがとうございました！

Director：Kazuhiro SASAKI

今週は土曜の走り出しこそ少しタイヤが合っていない印象があったのですが、午後の公式予選に向けてタイヤを硬めにして挑んだら、それが見事にハマってくれましたね。本当に良いクルマ、そしてタイヤがあったので、決勝レースも何も不安なく見ることができました。藤井選手もチャーリー選手も、決勝レースではずっと１分 28 ～ 29 秒台の良いラップを刻んでくれていたので、素晴らしいレースになったと思います。開幕戦でこうして優勝することができて本当に嬉しく思います。次の富士はウエイトも積みますが、何より得意なコースですからね。クルマもすごく調子が良いので、次戦も上位で多くのポイントを獲れるように頑張っていきたいと思います。

Supervisor：Tetsuya TANAKA

正直、レースウイークの前までは苦しむと思っていたのですが、想像以上の結果になりました。持ち込んだタイヤが、特に決勝では良いパフォーマンスを発揮してくれたのではないでしょうか。僕がチームに加わってから初めて岡山でポイントを獲得することができましたし、タイヤも良く、かつチームメンバーもドライバーもなんのミスもなく予選、決勝レースと戦い抜いてくれました。言い方は悪いかもしれませんが､勝てるときはこんな感じなんですよね。次戦の富士は昨年も上位を争った得意なコースではありますが、今回の優勝で燃料の給油リストリクターが入ってしまうんですよね。ただ勝てるときに勝つのは大事なことなので、今後も着実にやっていきたいと思っています。

Driver：Tomonobu FUJII

ポールポジションからのスタートで、優勝を狙っていきましたが､レースも長丁場で気温も高かったので､簡単なレースにはならないだろうと思っていました。タイヤをマネージメントしつつ、自分のベストを尽くしてレースを戦っていき、レース後半はチャーリーも長丁場のスティントで素晴らしい走りをしてくれて、こうして優勝を飾ることができて嬉しく思います。チームのみんな、そしてダンロップタイヤさんに感謝したいと思います。レースはすべての要素が揃わないと勝てないですし、岡山ではあまり良い結果がなかったので喜びもひとしおです。開幕で優勝できて、今後のシーズンもリラックスして臨めると思います。チャンピオン目指して次戦以降も強いレースをしたいですね。

Driver：Charlie Fagg

最高の気分だよ！ 予選もチームみんなが素晴らしい仕事をしてくれたし、ダンロップタイヤも素晴らしいタイヤを用意してくれて、ポールポジションを獲得することができた。決勝レースでも序盤、藤井サンが最高の走りをしてくれてトップで帰ってきてくれて、チームもクイックなピットストップをしてくれて、トップでコースに戻ることができた。レース後半は長いスティントで、少し孤独なレースになってしまったけれど（笑）、クルマも本当に速かったからね｡まさにパーフェクトな週末だったと思っているよ。今年は昨年と同じメンバーで臨んでいるし、そこが強みにもなっている。良い関係を築けているし、次戦以降もチャンピオン争いをリードできるように頑張っていきたいね。

AMR DUNLOP ENKEI ENDLESS Challenge to the Future HRX

NEXUS GROUP